

**生をめぐる問い**  
**—別様な世界を生きることを可能とする社会—**

2026年3月30日発行

天田 城介 編著 中央大学出版部発行

本体価格3,800円(税別)

序章	生をめぐる問い —別様な世界を生きることを可能とする社会—	天田 城介
第Ⅰ部 日常の生を捉え直す		
第1章	ハンセン病療養所退所者のパッシング実践 —多様な文脈の中で生きるということ—	千歩 弥生
第2章	労働による“強い”自分の自己呈示 —希少未診断患者Oさんのパッシングに関する分析を通じて—	上野 彩
第3章	誰かを経由して語られる「生きづらさ」 —出生女兒のみに発現する疾患を生きる当事者と その家族の人生—	高口 僚太郎
第4章	母親の経験から探る知的障害者の「自立生活」 —支援者とのやりとりの間に抱える解釈の相違—	染谷 莉奈子
第5章	併存性障害を有する人のアジール —IARSAでのフィールドワークを通じた考察—	相良 翔 青木 彩香
第Ⅱ部 世界の生を展望する		
第6章	中国地方都市における老親扶養をめぐる夫婦間の非対称性 —実親と義親をダブルで扶養する中年夫婦の「語り」の分析—	李 姝
第7章	中国中小企業経営者の事業承継 —社会ネットワークと信頼関係の継続と変革に着目して—	北 蕾 鄧 英琪
第8章	西洋的精神医療のグローバル化とアフリカにおける当事者運動	伊東 香純
第Ⅲ部 生の歴史を理論化する		
第9章	H.スペンサーの生存手段への請求権をめぐる思想的前提 —『政治の適正領域』(1843)における W.ペイリー批判を手がかりにして—	高森 明
第10章	家族計画から同和対策へ	矢野 亮
第11章	マジョリティを描くことの難しさ —予めの排除の効果として産出される主体としての当事者—	天田 城介
終章	「生をめぐる問い」と格闘する	天田 城介